

平成30年度 全国学力・学習状況調査

—取手市の児童生徒の結果について—

取手市教育委員会指導課



平成30年4月17日（火）に全国学力・学習状況調査が実施されました。その結果を基に、取手市内の児童生徒の傾向を掲載します。この調査は学力の一部をはかるものであり、学力の全てを示すものではありません。



- 調査対象・・・小学校6年生，中学校3年生
- 調査内容・・・教科に関する調査（国語，算数・数学，理科）

生活習慣や学習環境に関する調査



A 問題

主として「知識」に関する問題です。（身に付けておくべき基礎的な知識や技能）

B 問題

主として「活用」に関する問題です。（知識や技能を実生活で活用する能力）

質問紙

学習意欲や学習・生活習慣等に関するアンケート形式の調査です。

理科は，3年に1度調査を実施します。来年度は，国語，算数・数学のほかに中学校で英語の調査が新たに加わります。



取手市内小学校国語の結果



成果がみられるところ

- 相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて事例等を上げながら筋道を立てて話すこと
- 日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使うこと（心を打たれる）
- 話合いの参加者として質問の意図を捉えること

課題となっているところ

- ▲ 学習した漢字を、文の中で正しく使うこと
（しょう毒【3年生で学習】 せっ極【4年生で学習】）
- ▲ 文の中における主語と述語の関係に注意して文を書くこと
- ▲ 目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして書くこと

今後に向けて



- ・漢字の学習に当たっては、ドリル等を使いながら学校でも家庭学習でも積極的に取り組んでいます。さらに、読み方や字形の学習にとどまらず、同じ音や同じ部首をもつ漢字を集めたり、間違いやすい漢字カードを作ったりするなど、児童が楽しみながら、日常生活で正しく漢字を使うことができる力を養う学習活動を多く取り入れていきます。
- ・主語と述語の関係を捉える学習に当たっては、読む学習において、省略されている主語を意識しながら読み進めたり、書く学習において、自分で書いた文章を、主語と述語の関係に注意しながら読み返す習慣を付けていったりします。

取手市内中学校国語の結果



成果がみられるところ

- 全学年までに学習した漢字を文脈に即して正しく読むこと
(模型を作る 池の水が凍る 技を磨く)
- 接続詞の働きについて理解すること
(「それでは」の働き)
- 書こうとする事柄のまとまりや順序を考えて文章を構成すること

課題となっているところ

- ▲ 小学校で学習した漢字を、文の中で正しく使うこと
(紙をひもでタバねる)
- ▲ 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと
(彼は せきを切ったように話し始めた。)
- ▲ 目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書くこと

今後に向けて



- 漢字の学習に当たっては、小学校から引き続き、日常生活の中で正しく読んだり書いたりできるようにするために、辞書などを活用して漢字の意味や用法を確認しながら積極的に習った漢字を使うような学習活動を積み重ねていきます。
- 文を書く学習では、文の成分の順序や主語と述語の照応などを整え、自分の書いた文章が、相手に適切に伝わるようになっているかを常に推敲するような指導をしていきます。

取手市内小学校算数の結果



成果がみられるところ

- 1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すこと
- 百分率を求めること
- 折り紙で作った輪飾りの色の規則性を解釈し、それを基に条件に合う色を判断すること

課題となっているところ

- ▲ 180° や 360° を基に分度器を用いて、 180° よりも大きい角の大きさを求めること
- ▲ 円周率の意味について理解すること
- ▲ メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述すること

今後に向けて



- ・角の大きさの測定では、例えば、1直角、2直角、3直角、4直角を基にして「測定する角の大きさは、何度以上、何度以下になりそうか」と見当を付け、角の大きさを測定できるようにします。また、見当を付けた角の大きさと測定した角の大きさを振り返って確かめることができるように指導していきます。
- ・円周率について学習する際には、作業的・体験的な活動を通して、円周率が円周の直径に対する割合であることを理解できるようにします。
- ・グラフの特徴を複数の観点で捉えて、情報を読み取ることができるようにするために、他者が読み取った情報や観点をグラフと関連付けて解釈することができるように指導していきます。

取手市内中学校数学の結果



成果がみられるところ

- ひし形は，線対称な図形であり，点対称な図形でもあることを理解すること
- 多角形の内角の和を理解すること
- 事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを事象に即して解釈すること

課題となっているところ

- ▲ 数量の大小関係を不等式に表すこと
- ▲ 連立二元一次方程式の解を座標とする点は，座標平面上の2直線の交点であることを理解すること
- ▲ 発展的に考え，条件を変えた場合について，証明の一部を書き直すこと

今後に向けて



- ・事象において比べようとする数量に着目し，それらを数や文字を用いた式で表し，不等号を用いて数量の大小関係を適切に表すことができるようにします。また，「〇〇以上」「〇〇より大きい」の意味を理解し，区別して表すことができるように指導します。
- ・二元一次方程式を，一次関数を表す式と捉えられるようにするとともに，連立二元一次方程式の解は，2直線の交点の座標として求められることを理解できるようにします。
- ・問題に示されている条件の一部を変えた場合の図形の性質を考察する際に，基の問題の証明を振り返りながら，方針を立てるといった見通しをもって証明できるように指導していきます。

取手市内小学校理科の結果



成果がみられるところ

- 理科の学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識を身に付けること
- 骨と骨のつなぎ目について、曲がる仕組みをモデルで表すこと
- 川の流れによって流されてきた土砂を積もらせる働きについて理解すること
- 上流の天気と下流の水位の関係を分析し、考察すること

課題となっているところ

- ▲ 実験結果をもとに考察したことを文章で表現すること
- ▲ 回路を流れる電流の向きと大きさについての実験結果から電流の流れ方についてより妥当な考えをもつこと
- ▲ 食塩水を熱し水を蒸発させる実験結果をとおして、実験結果からいえることだけを言及すること
- ▲ 一度に流す水の量を増やした場合の流水実験の結果を分析・考察し、より妥当な考えを作り出すこと

今後に向けて



- 実感を伴った理解を促す授業づくりをさらに進められるよう、生活体験や学習体験と関連づけた授業を推進してきます。
- 児童自らが見通し（仮説）を立て、結果と関連づけて考察できるよう考察のポイントを確認しながら授業を進めていきます。

取手市内中学校理科の結果



成果がみられるところ

- 観察・実験を行う上で必要な基礎的・基本的な知識・技能を活用すること
- 光の反射を利用したモデル実験をもとにして適切な光の道筋を証明すること
- 人体の神経系の働きについて理解すること
- 地震の揺れの強さや地震波の特徴について理解していること
- 電流計は回路に直列に接続するという技能および電流計の電気用図記号の知識を身に付けていること

課題となっているところ

- ▲ 濃度の異なる食塩水から特定の質量パーセントのものを指定すること
- ▲ 風向の測定方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用すること
- ▲ 化学変化を原子や分子のモデルで説明すること
- ▲ 蒸散と湿度の実験を通して問題解決の知識・技能を活用すること

今後に向けて



- 問題解決的な能力の育成に重点を置いた授業づくりを更に進められるようにします。
- 観察・実験結果から、自らの考えを分析、検討するための時間を十分に確保するようにするとともに、その内容を全体で共有し、結果と分析、検討の妥当性について考えを深めることができるようにします。

児童生徒質問紙調査の結果

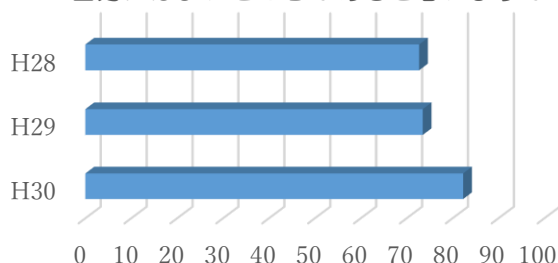


小学校児童質問紙について

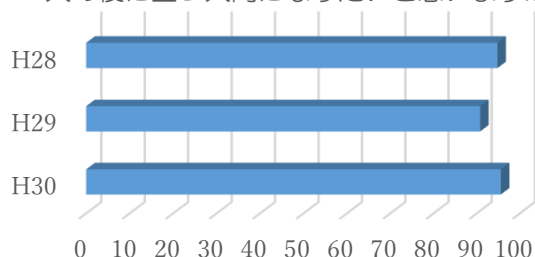
グラフは取手市内全小中学校の結果です

- 「自分にはよいところがあると思いますか」との質問に肯定的に回答した児童が増加傾向です。
- 人の役に立つ人間になりたいと思っている児童が多いです。
- ▲ 地域の行事やボランティア活動に参加している児童が、全国と比較すると少ない傾向にあります。

自分にはよいところがあると思いますか



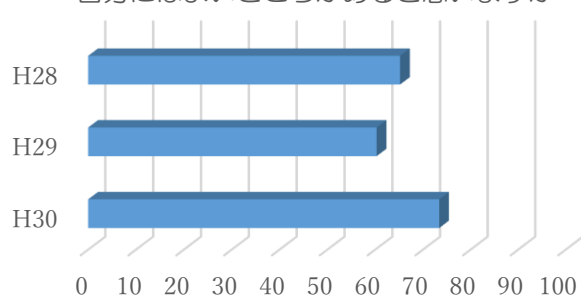
人の役に立つ人間になりたいと思いますか



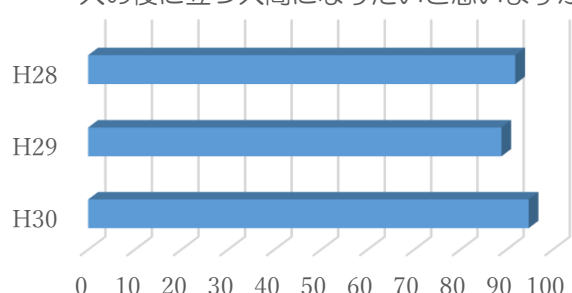
中学校生徒質問紙について

- 「自分にはよいところがあると思いますか」との質問に肯定的に回答した生徒が増加傾向です。
- 人の役に立つ人間になりたいと思っている生徒が多いです。
- ▲ 毎日同じくらいの時刻に起きている生徒は 9 割程度と多いですが、同じくらいの時刻に寝ている生徒は 7 割程度となっています。

自分にはよいところがあると思いますか



人の役に立つ人間になりたいと思いますか



児童生徒の学習・生活習慣と学力の関係

このような子供ほど、正答率が高いという結果が出ています。



【小学校】

- 朝食を毎日食べている児童
- 家で、学校の授業の予習・復習をしている児童
- 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある児童
- 解き方が分からないときに、諦めずにいろいろな方法を考えようとする児童
- 課題の解決に向けて、自分で考え自分から取り組もうとする児童

【中学校】

- 朝食を毎日食べている生徒
- 家で学校の宿題をしている生徒
- 解き方が分からないときに、諦めずにいろいろな方法を考えようとする生徒
- 解き方を説明する問題で、いろいろな方法を使って最後まで解答を書こうと努力する生徒
- 自分の考えを発表する機会に、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表しようとする生徒



太字は小中学校共通しているものです。